

大草谷津田いきものの里

春の声（音）を聴こう

木下 順次(千葉市)

日 時：2009年3月15日（日）10：30～12：00 天候：晴

参加者：大人7名 子ども1名 指導員2名

担当指導員：田井中信子・木下順次

普段は目で見る自然観察が中心になりますが、今回は五感のうちでも耳をすませて「聴く」ことを中心に自然観察会を企画しました。

雑木林の中と開けた草地で異なる野鳥の鳴声を観察しました。参加者の皆さんには、何種類の野鳥が鳴いているかを数えてもらい、場所によって生活している野鳥の種類が違うことや、なぜそこにいるのかといったことを考えてもらいました。

【鳴声を聴いた野鳥】ウグイス、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジ、カシラダカ、ヒヨドリ、メジロ、アオジ、スズメ、エナガ、セグロセキレイ、カケス（?）、ジョウビタキ（?）ほか。

ハンノキ林の周りでは、聴診器を用意して樹木の木肌にあて、どんな音がするかを聴いてもらいました。はじめに看板の支柱や丸太などの人工物に聴診器を当てて全くの無音であることを確認してもらった上で、周りにあるケヤキやイヌシデ等の樹木に聴診器を当ててもらいました。ゴーという音やゴボゴボという音など何かしらの音が聴こえます。樹種や樹幹の太さによる音の違いにも注目してもらいました。春になって樹木が水を吸い上げる音だ、というのは事実ではなく、実際には枝葉や根を伝わって聴こえてくる外界の様々な音が聴こえるのですが、木々が風に揺すられる音なのでしょうか、ザワザワした音が聴こえたり、周りの人が歩き回る足音や、遠くの野鳥の鳴声がはっきり聞こえたりします。樹木を通して普段意識しない音の世界をしばらく参加者の皆さんと楽しみました。

谷津田の中や土水路では、ニホンアカガエル（オタマジャクシ）やホトケドジョウなどを観察。水の音を聴いてみるのが本来のテーマでしたが、動くものを見つけると皆さん夢中になってしまいました。しかし、ふと耳を傾けると少し離れた場所からシュレーゲルアオガエルが鳴いていることに気がつきました。

最後に谷津田から下ノ畠へ上り竹の幹の音を確認し、竹やミズキは直接幹に耳をつけるだけでもよく聴こえることを説明しました。

参加者の皆さんには「聞く」と「聴く」の違いを、じっくり体験していただくことができたのではないかと思います。